

現在、製造業のみならず、あらゆる業種で人手不足解消や業務効率化への取り組みが一層求められてきています。解決策としてDX（デジタル・トランスフォーメーション）化と並び、人がやっていた作業を機械に任せる「自動化・ロボット化」も注目されています。中央区田名塩田の「テクノパイル田名工業団地」内に本社を構えるアルマックは、この道約40年の実績があります。生産ラインの自動組み立て装置や自動搬送装置、画像検査装置などを、お客様の要望に合わせ設計・製作。大手自動車メーカーや食品メーカーなども直接取引をしています。

■すべてが一品一様

省力化、自動化装置の開発を手掛ける企業として1984年6月に設立されました。「40年間やってきた中で、諦めた案件は1件もありません」（松村泰昌社長）と言うほど、技術力に自信を持っています。バブル崩壊以降は取引先の多角化を図り、今では食品業界などにも広がっています。

同社の製品には「カタログ品」や「標準品」はありません。すべてが一品一様です。なぜなら自動化・ロボット化したい装置の内容や導入目的は、お客さんによって異なるからです。すべての装置はゼロから設計しています。

現在、テクノパイル田名にある本社工場では、自動車業界を中心に、年間で大小70システムほどを手掛けています。具体的には「レーザーマーキング装置」や「ビニール梱包装置」「ガスケット組立機」「ハトメ加締め機」「ブラケット組立機」など、実にさまざまです。

一方、同社の技術は、私たちの身近な

ところにも生かされています。例えば、

スーパードでよく見かける生麺タイプの「焼きそば」です。ある大手企業の製造工場内では、同社の装置により、麺と粉末ソースをパッケージにまとめ、段ボールに詰めるまでの工程を自動化しています。

「ロボットが人が集まらなくなり、人がやる作業を代行する」自動化装置に対するニーズが高まっています」と、松村博士・ロボットチームチーフは市場拡大に期待を寄せます。その中で、同社の強みになるのは、自動化装置にとどまらず、必要に応じてロボットも使い分けられることができることです。

■高い内製化率

内製化率の高さも大きな特徴です。同社の場合、お客さんの要望をじっくりと聞き、装置の設計から部品加工、組み立て、現地での設置作業、試運転など、導入までをワンストップで行います。「一気通貫」のため、協力企業はほとんど使いません。「松村社長というほど徹底しています。」

ロボットを使う場合でも、ロボットに

自動化やロボットで課題解決 設計段階からワンストップで

アルマック(株) 代表取締役
松村 泰昌さん

ロボットチームチーフ
松村 博士さん



(左から) 松村社長と松村チーフ

動作を学習させるティーチング作業も目前で行っています。すべてがワンストップでできることで、お客さんの意向が確実に反映され、コスト競争力でも優位に立るとしています。

■時代にマッチした提案

今後について松村チーフは「これから先も何が起るか分からない時代ですが、それでも会社として安定してやって

いけたらと思います。そのためには、まずは時代にマッチしながら、お客さんのニーズに応えられる提案がどれだけできるかが大切だと思っています」と話しており、さらなる成長を見据えています。

なお、同社は10月19日から東京ビッグサイトで開催される「ジャパンロボットウィーク2022」にも、さがみはらロボットビジネス協議会ブースで出展します。